

地域の一員として 区立特別養護老人ホームが 果たす役割



世田谷区社会福祉事業団 上北沢ホーム

サービス係長 森川 敦子

特別養護老人ホームには入所者をはじめとする区民が、長年住み慣れた地域で安心して住み続けることができるよう支援する役割があります。

区立上北沢ホームは施設自体が地域の一員であり入所者100人は地域住民であるという認識の下、地域との接点を築き、地域に根ざしたホーム運営を目指してきました。地道に一つ一つ交流を重ねる中で、ともすればホームが「手助けしていただく」という一方になりがちだった地域との関係に、少しずつ変化がうまれてきています。



ボランティア交流会



地域の防災訓練で活動中の「車いす体験してみませんか」



近所の学園祭で大学生と交流する入所者

生徒が、地域にあるこのホームで学んでいます。

その他、ボランティアとホームとの関係も変化してきました。「自分の生きがいになっていく」「世界が広がり私が元気をもらっている」など、自己実現の場としてホームを訪れる方の増加です。現在では、年間延べ約3400人を超える、乳児から80歳代半ばまで幅広い年齢層のボランティアが、入所者や家族、職員等と交流を重ねています。

たとえば、ホーム入所者と地域との近所づきあいが活発になりました。近所のお宅や大学から、「遊びにきませんか」とお誘いをうけ、入所者が行き来するようになっています。近所の子どもたちがふらつとホームに来ては遊んでいたり、ホームを会場とした講座で知り合った地域住民が、また会いに来たわよ、と入所者を訪ねてこられたりします。

このように地域とホームとの交流が活発になる中で、ホームの中でも大きな変化が起こりました。職員提案によるチーム「車いす体験してみませんか」の発足です。車いす体験などを通して職員自ら地域に出ていき、直接介護の考え方や楽しさなどを伝えたり、介護に関する日頃の疑問などに答えたいという思いからうまれたものです。先日近隣の小学校で行われた防災訓練で担当した車いす体験コーナー

には、約90人の地域住民の参加がありました。「一度乗ってみてみたかった」「いざれ世話になる時に備えて今のうちに知っておかなくちゃ」等、様々な反響を得ることができました。また何よりも、地域住民と特別養護老人ホームとが、顔の見える関係でつながっていく手ごたえを、地域の中で

実感することができました。施設設立から12年目。地域住民やボランティアとの双方向の交流を深める中でみえてきた新たな道を目指して、社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団が運営する区立上北沢ホームは、地域の一員として必要とされるよう役割を果たしてまいります。

障がい 三木精愛園カレー店開設

兵庫県社会福祉事業団 三木精愛園

支援課 柴崎 真利



三木精愛園では、障害者に働くことの喜びや社会参加を創出する場として、また近隣住民のふれあいの場として、園敷地内にログハウス調のカレーハウス兼地域交流室を開設致しました。名称については広募を行いました。



カレーハウス moimoi 外観

カレーハウス「moimoi」(モイモイ)としました。「moimoi」は、フィンランド語で「やあ」、「こんにちは」、「さようなら」という意味です。このログハウスの材料はフィンランドから運ばれてきたもので、来店いただいたお客様とのコミュニケーションを深める中で、「私たちの願いや、思いが少しでも届けば」というメッセージを込めています。

このカレーハウスの特徴は、生活介護事業として実施することです。当園の場合、ケアホーム入居者の大半が生活介護事業利用者であり、また施設入所者も重度化が進んでいる中、生活介護サービスの多様化・充実が求められ、幅広いニーズに 대응していく必要を感じてきた中で、新たな取り組みとしても位置づけました。カレーハウス開店まで約3年